

# 大杉谷国有林からの手紙

## 16通目 ～山笑う・・・季節になりました～

皆さんは、「山笑う」という言葉をご存じですか？

これは俳句における春の季語で、「草木が萌え始めた、のどかで明るい春の山の形容」を表しています。

冬の間、雪に閉ざされていた大杉谷も、ようやく「山笑う」季節となり、今年も多くの皆さんが、笑顔になった大杉谷を訪れて頂いています。

さて、今回は、山開き前の4月13日から1泊2日で行われた「大杉谷登山道合同パトロール」について、ご紹介します。



木々達も若葉をつけて元気にお目覚めです。

皆さんもご存じのとおり、大杉谷は、「近畿の秘境」と呼ばれ、日本三大溪谷にあげられる溪谷美と豊かな森林で人気のある山岳コースとなっています。しかしながら、過去には、登山道からの滑落等による死傷者も多く、危険な場所であることも事実です。

そのため、毎年、山開きを前に、冬の間、積雪や落石によって傷んでしまった登山道の安全確認と整備を行っています。

参加メンバーは、大杉谷登山センター及び地域おこし協力隊を中心に、地元の大台町、三重県、環境省、私ども三重森林管理署、三重県防災航空隊、三重大学、大台警察署、奥伊勢消防署、山岳救助隊、三重県山岳連盟など関係機関で、まさに大杉谷に関わる者、21名のそろい踏みです。

ちなみに、膝に爆弾を抱えている私は、今年も麓で待機してました。



点検に出発する前に注意点の確認です。

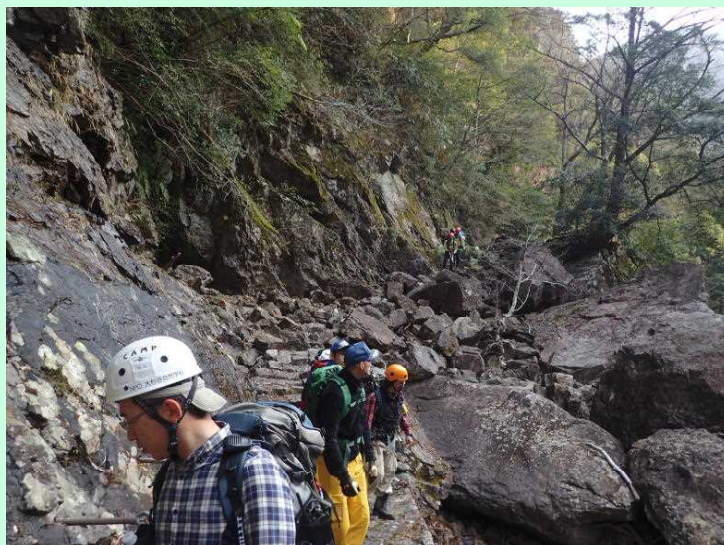
この安全点検は、宮川ダム上流にある標高300mの登山口から1,695mの日出ヶ岳の頂上までの約14 km、高低差約1,400mの登山道を2日間かけて、踏破するものです。

途中、落石や鎖などの安全施設の確認をしながら、登山道の落石や道をふさいでいる

倒木の除去、吊り橋のアンカーの腐食防止のための清掃、登山道の階段の整備や枝葉を取り除く作業など、登山者の皆さんが、安全で気持ちよく歩いてもらえるよう、黙々と作業を行いました。

また、万が一、遭難事故が発生した場合には、迅速な救助活動が求められることから、遭難事故発生時のピックアップポイントの確認や情報交換も行いました。

このように、合同パトロールは、大杉谷の関係者が、実際に大杉谷の現場で現物を観察して、現実を認識した上で、問題の解決を図る、まさに、三重署が目指している三現主義の活動です。



無事故を目指し、一歩ずつ確認しながら進みます。

今年度も、両日とも晴天に恵まれたおかげで、エメラルドグリーンの水面に映える溪谷美や芽吹きはじめた新緑を楽しみながら、日出ヶ岳を目指すことができました。

参加した職員からは、「鎖をつたいながら歩いていると、よくこんな所に登山道を作ることができたな、先人たちの努力に感心しました」、「歩いてみて改めて素晴らしい景観美を実感しました、でも綺麗な花には棘があるの諺のとおり、危険も伴うので十分な注意と準備が必要なことも発信していかなければと感じた」との声がありました。



今年も素晴らしい景色が労をねぎらってくれました。

今回、ご紹介した合同パトロールの取組は、縁の下の力持ち的なもので、なかなか皆さんに知っていただく機会はなかったかもしれませんが、大杉谷で素晴らしい景観や自然に触れた時に、多くの関係者の努力を思い出してもらえたら幸いです。

私も、山だけでなく大杉谷に関わる全てのみんなが、笑顔になれるように、頑張らないといけないと心を新たにしたところです。

皆さんも、大杉谷にいらっしゃる時は、ルールを守って、安全第一で、お願いします。

**(発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)**